

企画展



戦争孤児

東京空襲と

残された子どもたち

東京都養育院の戦争孤児たち (毎日新聞社提供)

2011年2月19日(土) - 4月24日(日)

- ・休館日:月曜日・第4火曜日(祝日の場合は翌日)
- ・時 間:午前9時~午後5時*入館は4時半まで
- ・入館料:個人100円・団体(20名以上)80円・中学生以下と愛の手帳・身体障害者手帳をお持ちの方は無料

墨田区向島2-3-5 Tel.03(5619)7034

すみだ郷土文化資料館

戦争孤児

—東京空襲と残された子どもたち

第二次世界大戦により、両親を亡くした戦争孤児が大量に生み出されたことは周知の事実です。しかし他の戦争体験者に比べ、孤児達の証言が一般に伝えられることは極めて少なく、その実像はほとんど知られていません。

資料館ではこれまで、空襲体験がもたらす心の傷ゆえに証言できない、という多くの方々に接してきました。しかし孤児の証言記録が乏しい理由にはさらに複雑な背景があります。戦争による親族の死の衝撃に加え、戦後のいわれない偏見・差別と無理解は孤児達が口を閉ざす大きな要因になってきました。

東京の戦争孤児はいかにして発生し、戦後、どのように生きてこられたのでしょうか。孤児達自身の証言・記録・写真・絵画の展示を通して、東京の戦争孤児の実態を紹介します。



親戚から
追い出され
夜は神社の隅で……

神社で夜を過ごす永井郁子さん（星野光世画）→

永井郁子さんは9歳の時東京大空襲で両親と3人の姉を亡くし孤児となった。

上の絵は、親戚や知人宅を転々とし、ついに帰る場所がなくなり、神社で野宿した永井さんの体験を、同じく東京大空襲で孤児となった星野光世さんが描いたもの。

東武線「業平橋」駅下車徒歩7分

都営浅草線「本所吾妻橋」駅下車徒歩8分

